

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Long-term alcohol consumption and risk of endometrial cancer incidence: a prospective cohort study.</p> <p>長期間の飲酒と子宮内膜癌発生率のリスク：前向きコホート研究。</p>	
執筆者	
Friberg E, Wolk A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2009 Jan;18(1):355-8.	
キーワード	
子宮内膜癌、住民ベース、前向きコホート研究、スウェーデン、低量飲酒	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>飲酒で子宮内膜癌の危険が増加すると仮定されてきました。アルコールと子宮内膜癌発生率との関連を調べるため、住民ベースの前向きコホート研究である Swedish Mammography Cohort (スウェーデンマンモグラフィコホート) 研究よりデータを使用し、6万1226人の女性を解析しました。</p>	
<p>方法：</p> <p>アルコールの消費量は1987年から1990までの基礎調査時と追跡時の1997年に公認されている食物頻度法で算定しました。平均17.6年間の追跡間に、687人の子宮内膜癌患者がスウェーデンの癌登録で特定されました。</p>	
<p>結果：</p> <p>年齢、BMI、喫煙を調整したところ、飲酒量と子宮内膜癌のリスクとの間に関連は認められませんでした。飲酒しない群に比べ長期間飲酒群で飲酒量が多い上位3つのカテゴリでは、多変数レート比(95%信頼区間)がそれぞれ、<3.4g/日群で1.01(0.84-1.22)、3.4～9.9g/日群で1.01(0.80-1.27)、10g以上/日群で1.09(0.71-1.67)でした。年齢、BMI値、葉酸摂取、閉経後のホルモン使用の有無で層別解析してもこの関係は変わりませんでした。</p>	
<p>結論：</p> <p>結論として、低量飲酒(1日1drinkまで)は子宮内膜癌のリスクに、実質影響を及ぼすことはなさそうだということが示されました。</p>	